

## 近松寺（1/2）

～近松門左衛門の遺髪塚がある臨濟宗の古刹～

唐津市西寺町

山名 瑞鳳山 宗派 臨濟宗 南禅寺派

寺の創建は寺伝によれば後二條天皇の乾元元年（1302）と伝えられている。降って天文年間（1532～1554）、岸嶽城主波多三河守親は博多聖福寺の僧湖心碩鼎（こしんせきてい）の高徳を慕い、満島山（現在の唐津城内）に近松寺を再建し開祖として迎えたと伝えられている。

この寺は天正2年（1574）に兵火に遭い焼失する。

文禄2年（1593）、豊臣政権によって波多三河守親が改易となり寺沢広高が波多氏のあとを受けて唐津地方の代官となった。そこで広高は博多聖福寺にいた耳峯玄熊（じほうげんゆう）を招き、中国の明や朝鮮との外交の任に当らせた。耳峯禅師はよくその任に應えると共に、慶長3年（1598）には祖師湖心碩鼎ゆかりの近松寺を現在地に再興した。寺沢広高は耳峯禅師の功績に報いるために寺田百石と山林を寺産として贈り、菩提寺として篤く帰依した。

寺沢氏2代目の堅高（かたたか）が江戸藩邸で死去すると嗣子がなく寺沢氏は断絶となり、寺運も衰退に向った。その時、近松寺の法燈を守っていた。第四世遠室明超（えんしつみょうちょう）はこれを憂い徳川家光に近松寺の隆盛を懇請した。やがてこれが聞き届けられ百石の御朱印を賜り旧觀を維持することができるようになった。

その後、譜代の大名大久保・松平・土井・水野・小笠原各氏の唐津入部となったが、歴代の城主は当寺を帰依した。中でも文政元年（1818）に入部した小笠原公は寺田百石を寄進して、菩提寺として深く帰依した。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



江戸時代の浄瑠璃・歌舞伎作家、近松門左衛門が幼少期に学んだという伝承もある近松寺



小笠原記念館

（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『東松浦郡史』／久敬社編纂 大正14年
- ◆『佐賀の信仰と美術』／佐賀県立美術館平成9年
- ◆近松寺由緒書／近松寺
- ◆『末盧国』／松浦史誌会編

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

	分野 歴史
	地域 唐津
<p style="text-align: center;"><b>近松寺（2/2）</b> ～近松門左衛門の遺髪塚がある臨濟宗の古刹～</p> <hr/> <p>～1/2からつづく～</p> <p><b>■近松寺境内にあるもの</b></p> <p>1. 近松門左衛門の遺髪塚 江戸時代の浄瑠璃・歌舞伎作家、近松門左衛門が幼少期に学んだという伝承もある近松寺。境内の本堂わきには門左衛門の遺髪塚が建てられている。</p> <p>2. 小笠原記念館 唐津藩6代目藩主小笠原氏の史料や、小笠原長生と関係が深かった乃木希典の、唐津藩ゆかりの高橋是清、辰野金吾、曾禰達蔵、奥村五百子など明治期に活躍した郷土の偉人たちの肖像写真などが展示されている。設計を手がけたのは、長崎の日本二十六聖人記念聖堂などで知られる今井兼次氏。和風の意匠に現代建築を組み合わせた上質なデザインである。木造平屋建て。 1956年竣工。</p>	<p>◎地図・写真・統計資料など</p> <hr/> <p>◎引用・参考文献（出典）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆『東松浦郡史』／久敬社編纂 大正14年</li> <li>◆『佐賀の信仰と美術』／佐賀県立美術館平成9年</li> <li>◆近松寺由緒書／近松寺</li> <li>◆『末盧国』／松浦史誌会編編</li> </ul>
<p>◎エピソード・伝承・うんちく など</p> <p>湖心碩鼎（こしんせきてい）は天文8年（1539）大内義隆の命を受けて遣明正使となった高僧である。 湖心禅師は耳峯禅師の師である。 文禄慶長の役のさなか、文禄2年（1593）に豊臣秀吉が大坂へ帰り名護屋城を離れたことに伴い、寺沢志摩守広高が代官となった。『近松寺由緒』によれば広高は明や朝鮮との外交をつかさどっていたため、通事として博多聖福寺から耳峯玄熊（じぼうげんゆう）を招き事に当らせた。そのこともあって広高は耳峯禅師の師に当る湖心禅師が最興した近松寺を与えたという。</p> <p>湖心碩鼎・耳峯玄熊の登用は、当時唐津の政治的重要さと共に、それを果した禅僧の役割の大きさがうかがえる。その一方で湖心・耳峯禅師の来住により、高僧の交流は唐津にまで広まり、当地の文化を潤したことも想像に難くない。</p>	<p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>